

令和4年度

大松小学校 「学力向上実行プラン」

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びを実現する子どもの育成

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 朝日奈美樹	委員 教務主任 原田三知子 3年主任 阿部かをり 5年主任 竹原 祥子	2年主任 粟田 のり子 4年主任 秋田 泰宏 6年主任 鴨頭 真弓
------------------	---	---

校長

佐川 知徳

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取り組み状況の把握を行う。

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○学習規律を身に付け、当該学年の基礎的・基本的な知識・技能を概ね身に付けることができる。 ●当該学年の基礎的・基本的な知識・技能の習得に個人差がある。文章問題、文章表記、言語力を要する問題に課題がある。	・基礎的・基本的な知識・技能を身に付けることができる。(児童全体の7割以上) ・相手の話を最後まで聞くことができる。	・板書や説明を工夫した丁寧な指導。 ・ヒントカードや具体物の活用。 ・タブレットの有効活用。 ・朝活で学習の習熟を図る。 ・必要に応じて個別指導をする。	継続して指導する。	・7割以上の児童が基礎的な知識・技能を身に付けることができた。 ・9割程度の児童が最後まで話を聞くことができる。しかし、1割程度の児童は話の途中で自分の思いを口に出してしまう。また、最後まで聞いているが、理解できていない児童もいる。	・どの児童にも分かりやすくシンプルな授業を心がける。 ・朝活で読書の時間を確保する。 ・タブレットを効果的に活用する。 ・漢字、計算などのミニテストを実施する。 ・書くこと、話すことを重点的に指導する。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自己表現や思考の言語化が豊かな児童により、授業が活発化している。 ●自分の考えを表現することが苦手な児童がいる。文章題の内容を理解し、正答を表現することに課題がある。	・自分の考えを自信をもって豊かに表現することができる。 ・文章題を理解し、正答まで導き、表現することができる。	・ペア・グループ・全体など表現する機会の充実。 ・挙手することで意思表示をさせる。 ・表現方法を表示して共有する。 ・教科書以外にもスキルなど問題量を確保する。	継続して指導する。	・話し合いの形態を工夫することで(ペア・グループ・タブレット・朝のスピーチなど)自分の考えを表現することができる児童が増えた。一方で、豊かに表現するまでは至っていない児童もいる。 ・半数近くの児童が自力で正答まで導くことができる。しかし、算数の文章題の解き方を全体の前で説明することが難しい児童もいる。	・正答に導くまでの思考過程を明確にするために、音読する、ノートに自分の意見を書く、話すように段階的に指導する。 ・話し合いや討論などの短い時間での意見交流の場を増やす。その際は評価規準を共有する。 ・算数では文章題を読み、いくつの式になるのか四則計算のどれを使うのか予想できるようにする。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○授業や家庭学習に真面目に取り組む児童が多い。 ●自ら課題を見つけて取り組むことに課題がある。	・自ら進んで課題を見つけることができる。 ・集中して自力解決に向けて取り組むことができる。	・児童の実態に応じた授業展開。 ・関心を高める導入の工夫。 ・自ら課題を見つける場面を設定する。 ・学年便り等で家庭との連携を図る。	継続して指導する。	・決まった課題に対しては自力解決に向けて熱心に取り組むことができる。内容によっては自分の興味があることや挑戦したいことを見つけて主体的に取り組むことができる児童もいる。 ・家庭学習については、定着していない児童もいる。	・おもしろい、やってみたいと思えるような学習活動の工夫。 ・自ら課題を見つける場面を計画的に設定する。 ・児童の関心を高める導入を行い、学習のゴールイメージをもたせて学習を進める。 ・意見の分かれる発問の工夫。 ・家庭学習の内容や量を検討する。

令和4年度 学力向上ロードマップ

